

TOPICS

令和8年10月4日に、
本院は開院50周年を迎えます

記念事業の概要、病院長からの挨拶、ご寄附
のお願い等をまとめた、医学部附属病院開院
50周年記念WEBサイトを公開中
です。ぜひご覧ください。



50周年記念WEBサイト



附属病院開院50周年 記念ロゴマーク決定

令和8年に迎える開院50周年を記念した
ロゴマークを公募。全国から131作品もの
応募があり、本院輸血・細胞治療部の小西
達矢助教の作品が選ばれました。また、ロ
ゴマークを用いた垂れ幕を、院内各所に設
置し、患者さんや見
舞に來られたご家
族の目を楽しませ
ています。



50周年記念ロゴマーク



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111 (代)

情報発信中！



愛媛大学医学部附属病院
ホームページ



医学部及び附属病院
Instagram



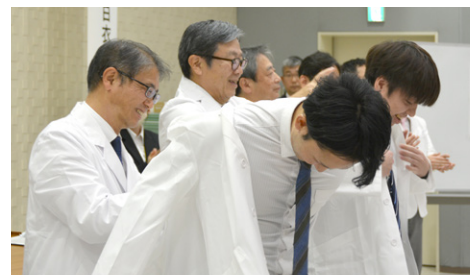
愛媛大学大学院医学系研究科・医学部
ホームページ

白衣授与式を実施

令和7年12月18日(木)、医学科4年生を対
象とした白衣授与式を実施しました。式では、
臨床実習の資格を得た医学生一人ひとりに教
員から白衣が授与され、学生たちは医師を志
す者としての責任と自覚を新たにしました。
今後は「Student Doctor」として臨床実習
に臨み、患者さんや医療スタッフとの関わりを
通して、チーム医療の重要性や医療人として
の姿勢を学びながら、将来の地域
医療を担う人材へと成長していく
ことが期待されます。



医学部ホームページ



四国4県で初の 心臓移植手術を実施

本院は令和6年3月に日本臓器移植ネットワ
ークに登録され、全国で12番目、中国・四国地
区で唯一の成人心臓移植施設に認定されまし
た。令和7年5月18日(日)、本院において心
臓移植手術を実施しました。認定後の初めて
の手術であり、四国4県でも初の
心臓移植手術となり、以降も、令和
7年度中に3回実施しました。



附属病院ホームページ

東温市ふるさと納税を通じた 支援事業を開始

令和7年9月から、東温市のふるさと納税に、
「愛媛大学医学部への支援」を目的とした寄
附メニューが追加されました。教育・研究・医
療環境の整備に有効活用する予定です。



医学部
ホームページ



東温市
ホームページ



令和7年12月12日(金)、外来ホー
ルにて愛媛県警察音楽隊によるクリ
スマスコンサートを開催

編集後記

本号では、「愛媛の医療を支える新たな力」として、新たに
着任した4名の教授をご紹介
しました。地域医療・総合診
療、脳卒中診療、呼吸器疾患
診療、口腔疾患診療と、それ
ぞれの専門分野から見据える
のは、愛媛が抱える医療の課
題解決と、次世代を担う人材
の育成です。地域の自治体や
医療機関との強固な連携は、
教育・研究・診療を通じて県
内各地へと広がっていきま
す。地域とともに歩み、地域
に支えられながら発展する本
院の新たな挑戦に、ぜひご期
待ください。



広報委員会委員長
熊木天児

今月の表紙

令和8年 仕事始め式にて

INVITATION

EHIME UNIVERSITY HOSPITAL 愛媛大学医学部附属病院 広報誌

79

2026

愛媛の医療を支える新たな力

- 01 | 地域に寄り添い、未来の医療を支える人材を育てる
- 02 | 脳卒中救急体制の運用安定化、脳卒中ピアサポートの設置
- 03 | 全ての呼吸器疾患を統合的に診療し、呼吸器診療を次のステージへ
- 04 | 口腔機能衛生の改善・維持により、口腔がんを含めた疾患予防



< 寄附講座 > 地域医療・総合診療学講座の紹介

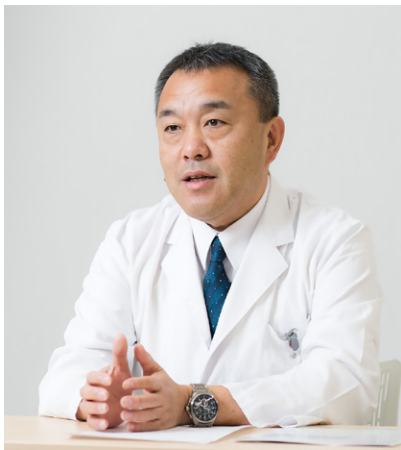
地域に寄り添い、未来の医療を支える人材を育てる

地域医療・総合診療学講座 教授 阿部雅則

愛媛県の地域医療では、医師の総数は一定数確保されている一方で、島しょ部や山間部などを中心に医師の地域偏在が大きな課題となっています。さらに、高齢化や人口減少が全国平均を上回る速さで進む中、住み慣れた地域で安心して医療を受けられる体制をどのように維持していくかが課題となっています。本講座では、総合診療や地域医療を志す若手医師・医学生の育成を重要な使命と位置づけています。患者さんの病気だけでなく、生活背景や家族、介護・看護との連携まで含めて総合的に支える力を養い、地域の医療ニーズに応えられる医師の育成に取り組んでいます。一方、人材育成には時間を要するため、現在地域で診療に携わる医師へのリスクリングも推進し、総合診療の視点や実践力を高める機会を広げていきます。地域内ですべての医療を完結することが難しい場合でも、患者さんを支える中心的な医師の存在は、地域医療の大きな支えとなります。患者さんを「一人の人間」として理解し、対話を大切にする医療人材の育成を通じて、愛媛県の地域医療の持続性向上に貢献してまいります。



地域医療・総合診療学講座
ホームページ



PROFILE

あべまさのり◎1994年愛媛大学医学部卒業。2009年准教授、2022年特任教授、2025年4月から現職。「与えられたことを地道に一つずつこなす」ことを心がけている。趣味は散歩とスポーツ観戦。

< 寄附講座 > 統合呼吸器診療学講座の紹介

全ての呼吸器疾患を統合的に診療し、呼吸器診療を次のステージへ

統合呼吸器診療学講座 教授 大西広志

本院の第二内科呼吸器グループは、間質性肺炎の血清マーカー KL-6を発見した専門医がかつて在籍し、間質性肺炎・喘息・COPD（慢性閉塞性肺疾患）を専門とする多くの専門医を輩出してきた、「非がん領域の呼吸器の聖地」でした。県外転出による人員不足の時期もありましたが、現在は、非がん領域の呼吸器診療に強みを持つ本講座と、肺がん診療を専門とする地域胸部疾患治療学講座、そして第二内科呼吸器グループと連携して、愛媛県全体の呼吸器医療の質の均てん化を推進しています。高齢化に伴う肺がんやCOPD患者の増加、そして疾患の認知不足による受診遅れも大きな課題です。そのため、市立宇和島病院、済生会今治病院、住友別子病院（2025年7月から本講座がサテライト拠点を開設し、2026年4月から常勤医配置）などの地域拠点との連携を強化し、サテライト診療体制の拡充とともに、疾患の啓発活動にも積極的に取り組んでいます。患者さん一人ひとりに最適な医療を届けるため、初診時から十分な時間をかけ、丁寧に系統的な診察を徹底しています。



統合呼吸器診療学講座
ホームページ



PROFILE

おおにしひろし◎1997年愛媛大学医学部卒業。2025年7月から現職。趣味は散歩（休日に5kmの早歩き）、城郭・山城巡り。

< 寄附講座 > 地域脳卒中医学講座の紹介

脳卒中救急体制の運用安定化、脳卒中ピアサポートの設置

地域脳卒中医学講座 教授 渡邊英昭

脳卒中の主因は脳梗塞であり、超急性期の再開通治療として、tPA静注療法（発症から4.5時間以内が目安）と血栓回収術（カテーテル治療、一般に6時間程度まで有効）があります。日本でのこれらの治療は国際的にみると遅れています。治療を普及するには、専門知識の浸透、対応可能施設・専門医の確保、搬送システムの整備が必須です。

松山圏域では二次輪番制が障壁となり、脳卒中对応可能施設に届かない事例がありました。これを今年から、本院・愛媛県立中央病院・松山赤十字病院の3施設が輪番制を越えた受け入れを開始。救急隊から連絡が入れば3施設が即応し、半日以内の治療体制を目指します。またサテライトセンターである住友別子病院が新規に血栓回収術に対応し、愛媛県立新居浜病院と二拠点で症例を分担。救急隊との連携を強化し、2025年7月から運用開始しました。今後は積極的な外部出向による教育活動の拡張と、行政・医師会との連携を強化し、啓発資料の配布と説明の機会を増やします。



地域脳卒中医学講座
ホームページ



PROFILE

わたなべひであき◎1992年愛媛大学医学部卒業。2014年脳卒中センター長、2025年7月から現職。専門分野は脳血管障害。好きな言葉は、努力は人を裏切らない。最近、ブードル（さらちゃん）を飼い始める。

< 寄附講座 > 口腔先進医療学講座の紹介

口腔機能衛生の改善・維持により、口腔がんを含めた疾患予防

口腔先進医療学講座 教授 中城公一

愛媛県、特に松山市では、智歯抜歯を含む口腔外科小手術や口腔粘膜疾患、有病者歯科診療などを専門に行うことができる歯科医師が不足しているため、患者さんの診療までの待機期間が数ヶ月に及んでいます。この課題を解決するためには口腔外科専門医の育成が急務です。まず私自身が松山市で口腔外科診療を担当し、松山市歯科医師会と連携しながら、患者さんのニーズに応える体制を整えています。一方、研究面では超高感度リキッドバイオブシー（がん細胞由来の物質を検出・解析）と、複合がん免疫療法の開発・臨床応用により、口腔がんの制圧に最も力を入れようと思っています。今後、口腔外科及び有病者歯科治療の充実により、愛媛県民の口腔機能衛生管理を徹底し、がんを含めた様々な疾患の予防につなげ、健康寿命の延伸に貢献したいと考えています。患者さんの幸せを最優先に考え、できる限り負担の少ない方法で最大の治療効果を得られるように心がけます。革新的医療を目指す教育・研究拠点となる講座を目指します。



口腔先進医療学講座
ホームページ



PROFILE

なかしろこういち◎1993年徳島大学歯学部歯学科卒業。ノースウェスタン大学、徳島大学歯学部附属病院を経て、2001年本院へ。2006年准教授、2025年9月から現職。好きな言葉はセレンディビティ、趣味は映画鑑賞。